

議事（3）

調査等の実施状況

1. 現地調査速報

1. 鳥類

● 調査対象

定点調査：主として猛禽類の繁殖及び渡り鳥（特にガン・カモ・ハクチョウ類と猛禽類）の動向を把握

スポットセンサス調査：主として留鳥・繁殖期及び越冬期の鳥類の動向を把握

洋上センサス調査：当該海域に飛来する鳥類の動向を把握

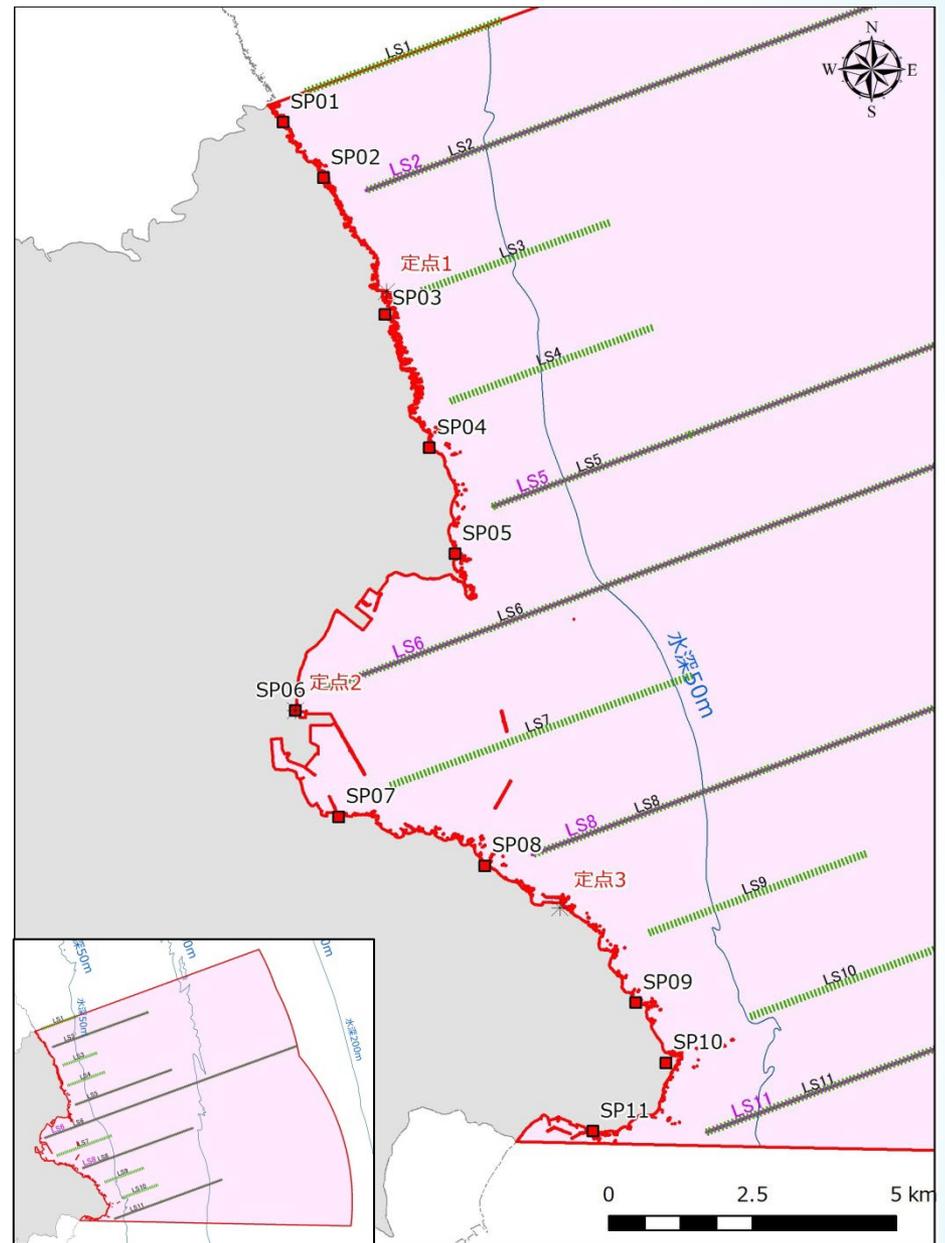
● 実施場所

定点調査：3地点

スポットセンサス調査：11地点

洋上センサス調査：11測線

レーダー調査：1地点（SP05）



凡例

久慈市沖海域 ※ 定点調査 ■ スポット調査 〰 LS(秋季のみ) — LS(冬季以降)

1. 鳥類調査

- 実施日

秋渡り：2018年11月26日～30日

越冬期：2019年1月28日～2月1日

春渡り：2019年3月12日～16日（陸上）

2019年4月17日～18日（洋上）

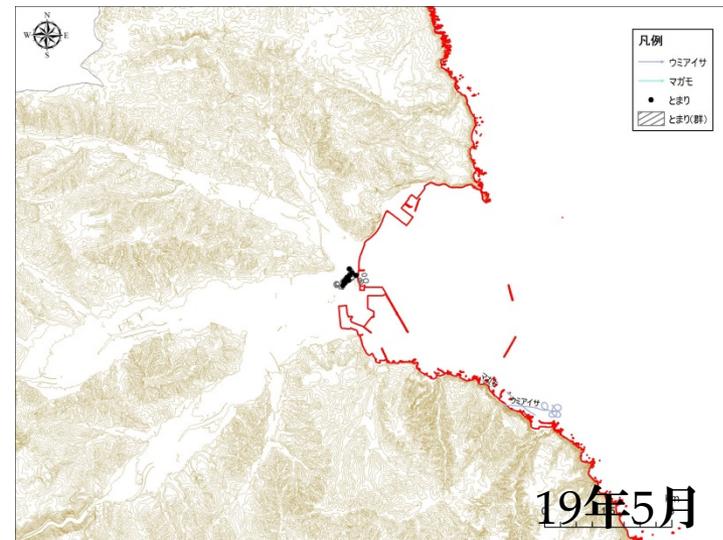
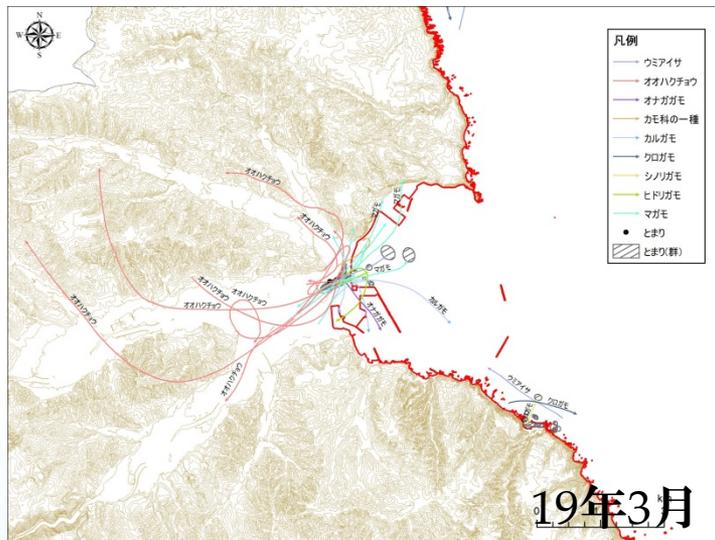
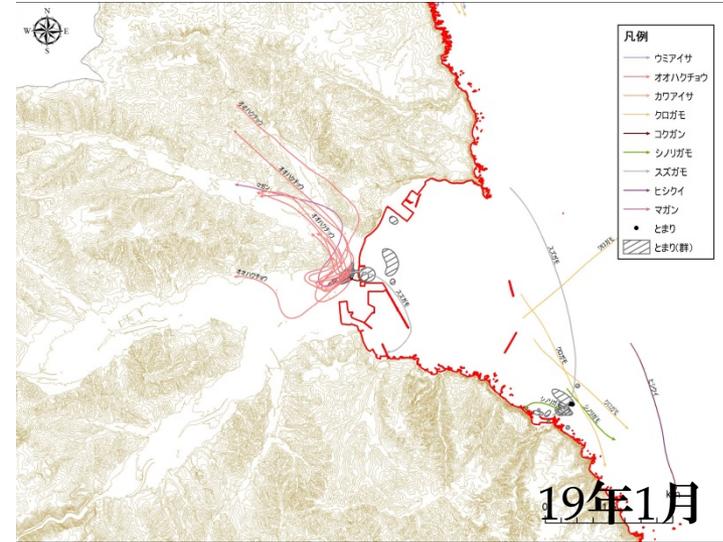
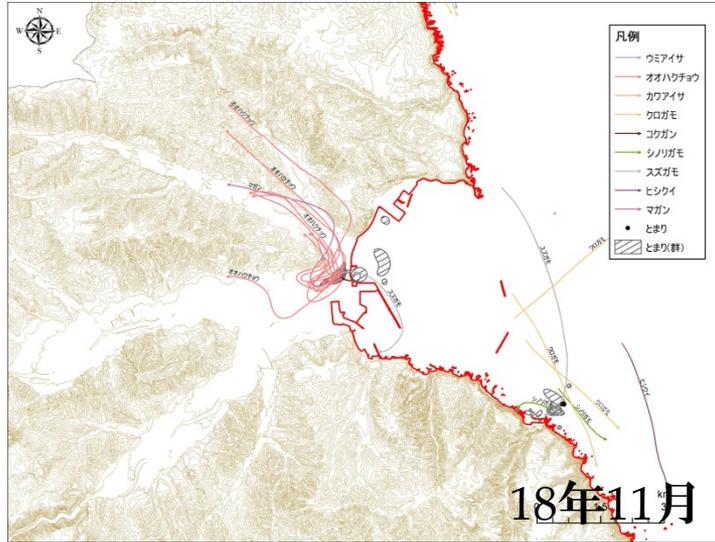
繁殖1：2019年5月12日～17日

【鳥類重要なサイト】

- 猛禽類営巣地、ウ類・カモメ類集団繁殖地
- オオハクチョウ・カモ類越冬地（ねぐら）
- 洋上渡りルート（ガン類・アビ類）

鳥類：重要なサイト

・ オオハクチョウ・カモ類 越冬地（ねぐら）

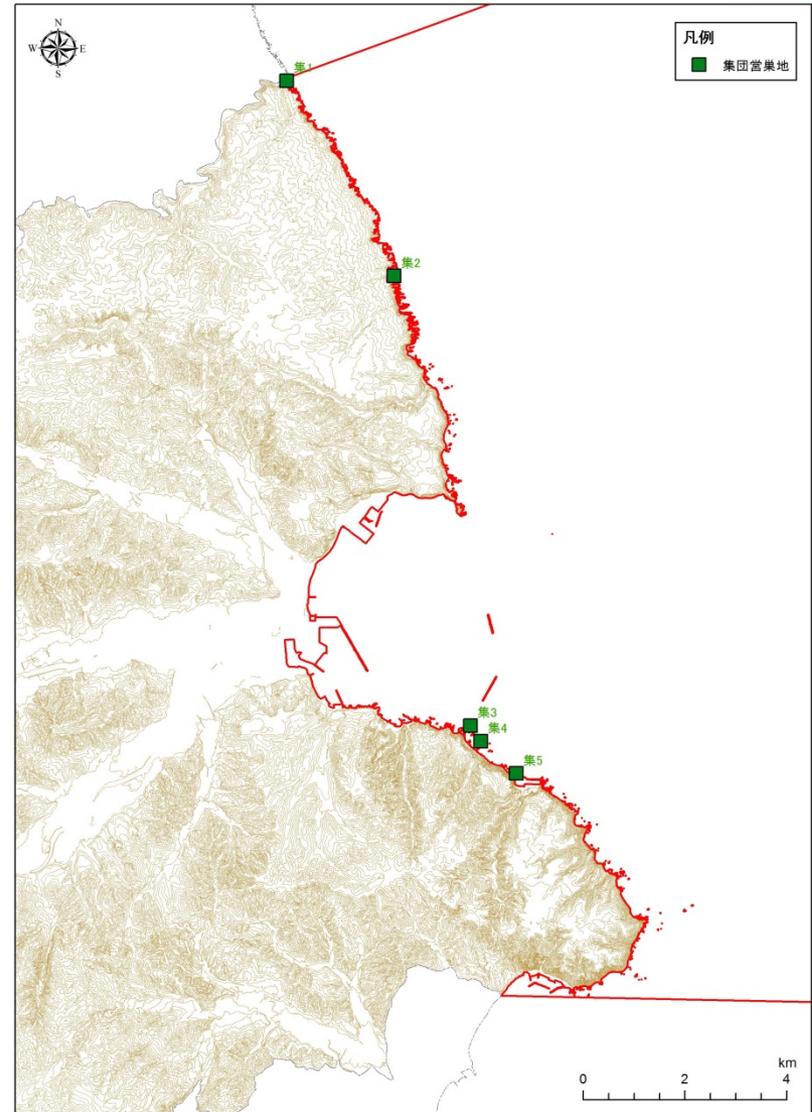


- ・ カモ科（ガン類・カモ類・オオハクチョウ等）のみでフィルタリングしている。

鳥類：重要なサイト

ウ類・カモメ類集団繁殖地

地点No	種
集1	ウミウ
集2	ウミネコ
集3	オオセグロカモメ
集4	ウミウ、ウミネコ、 オオセグロカモメ
集5	ウミネコ、 オオセグロカモメ

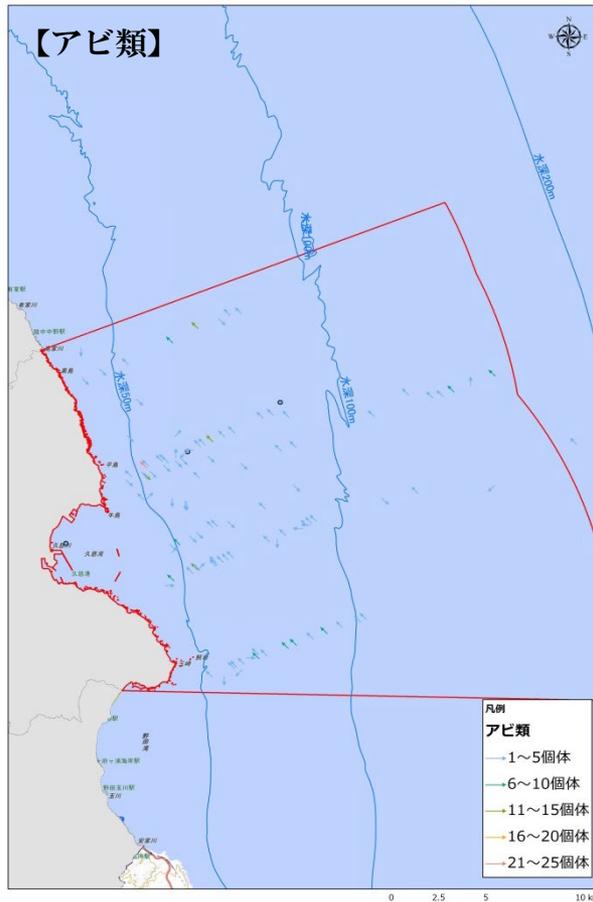


鳥類：重要なサイト

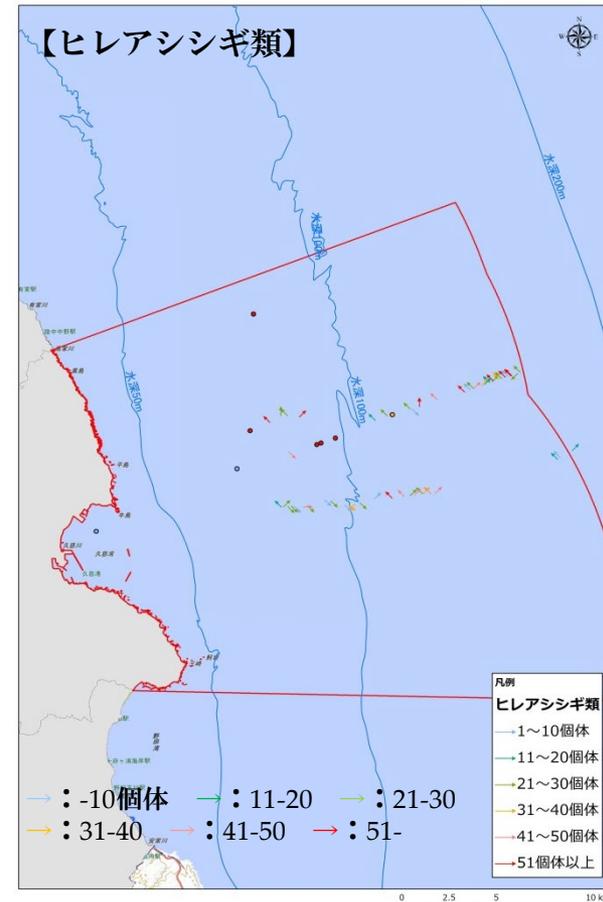
・ ガン類・アビ類・ヒレアシシギ類 渡り



11月にマガン・ヒシクイの南下個体確認、例数は少なく、海上から陸上ないし沿岸部を飛翔



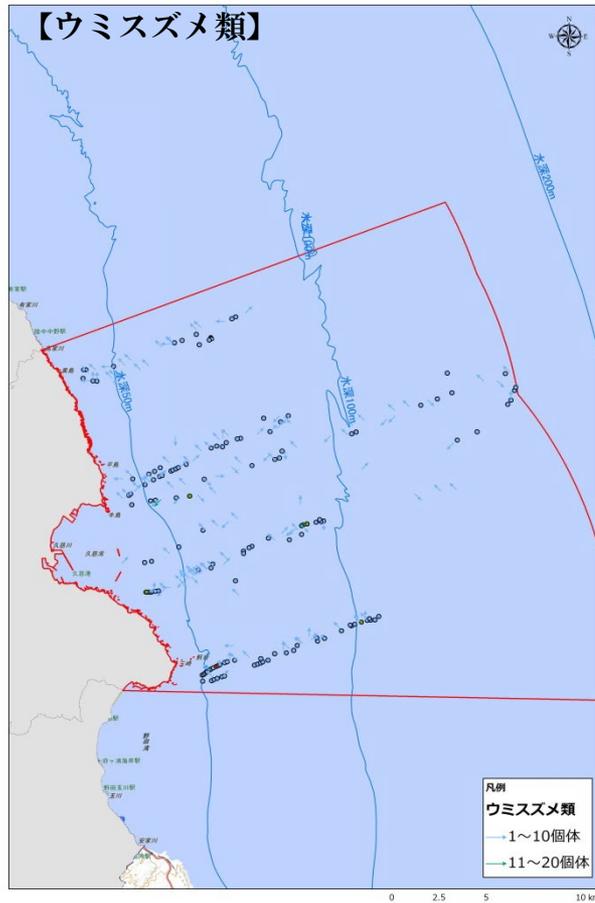
11月に南下、4-5月北上個体群を確認。沿岸部から洋上20km付近まで広く確認されるが、個体数が多い群は5km程度の沿岸部を飛翔する傾向、飛翔高度も比較的低い



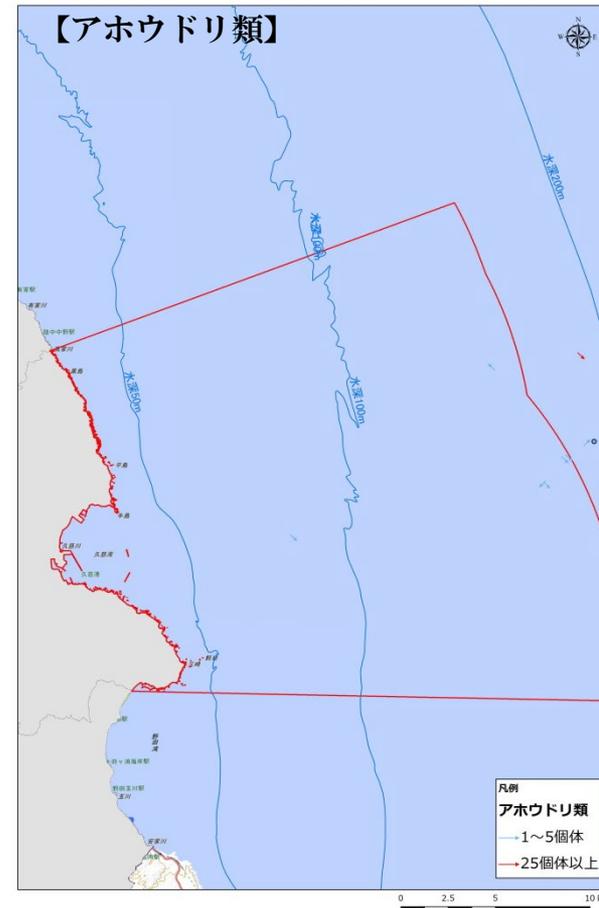
5月に北上個体群を確認。比較的沖側を飛翔、飛翔高度は低く、海面すれすれ

鳥類：重要なサイト

- 洋上で確認された貴重種（ウミスズメ類、アホウドリ類）



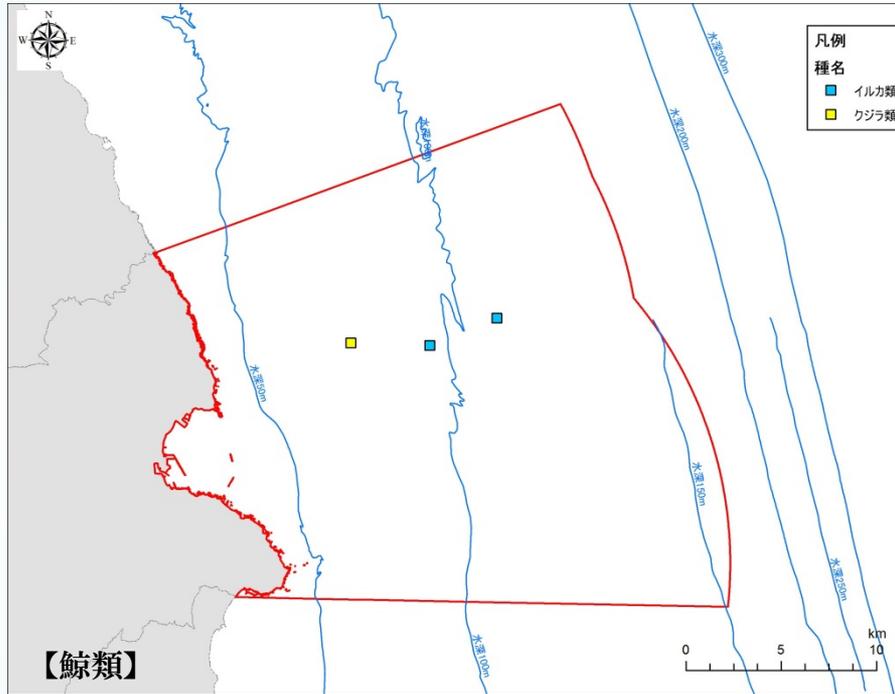
4-5月に多く確認、4月には沿岸部で個体数の多い群れが確認されたが、5月にはやや沖側に個体数の多い群れが確認された



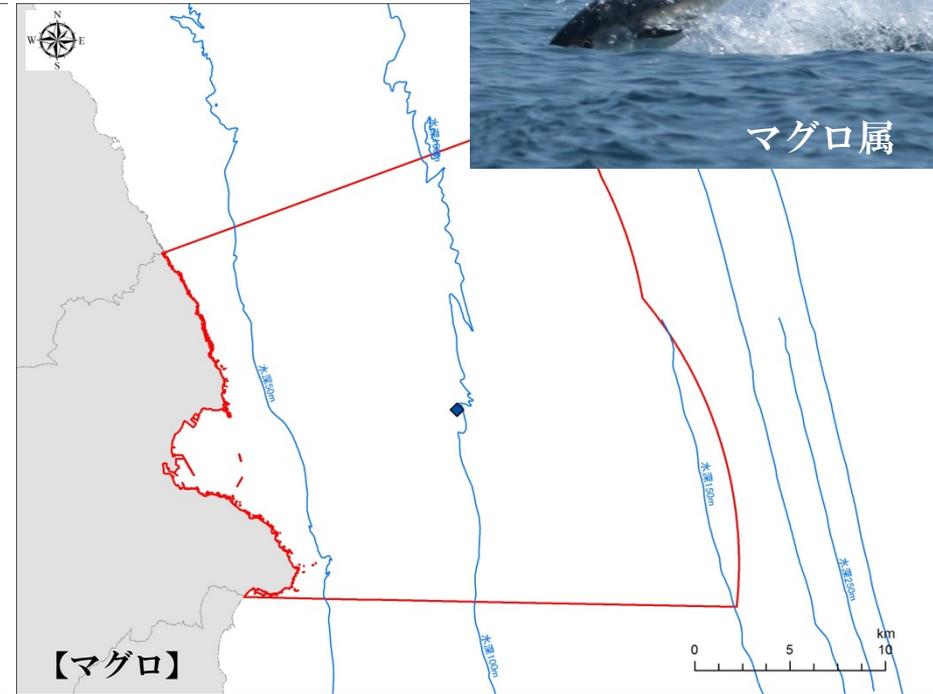
4-5月のみで確認、5月には沖側水深150m付近で漁船を追尾する群れを確認した

その他の動物の確認（海棲哺乳類・魚類）

・ 洋上で確認されたその他の動物



4月調査時にクジラ類を、5月調査時に2地点でイルカ類を目視確認した。



5月調査時に水面を跳ねるマグロを複数目視確認した。



2. 魚類

・ 市場ヒアリング（再掲）

- 漁場は北と南で年によって良・不良はあるが、魚の移動に伴うもので、特に相違はない。
- イカは産卵場所の水温が不適になり数が減っている。1年魚なので一度激減すると回復に時間がかかる
- イカが減少しイワシ・サバが増加→魚類交代の時期、まき網船が増加傾向

操業海域 1: ~5km 2: 5~10km 3: 10~20km

漁法	操業時期												操業海域			操業水深		魚種	備考	
	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	1	2	3	表層	底層			
定置網															1			表層	サケ、サバ、ブリ類、イワシ(6/10~1月頃)	
磯建網					7	8	9	10	11	12					1			表層	サケ、サバ、ブリ類	定置網より岸寄り
さけ・ます延縄									10	11	12	1				2		中層	サケ	
立て縄	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			2	3		底層	メバル、スイ、マダラ	6~7月がピーク、10~12月も釣る。
いか釣				7	8	9	10	11	12						2	3		中層	スルメイカ	
底刺網	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			2			底層	カレイ類、アンコウ	主な魚種は全部ひっかかる。
底ひき網	4	5	6				9	10	11	12	1	2	3			3			クジラ、スルメイカ、スケトウダラ、マダラ、キチジ(キンキ)	200m以浅では行わない協定が本当はある。
まき網					8	9	10	11	12							3		中層	イワシ、サバ	
すくい網 なし																				
こうなご棒受網	4	5													1			表層	コウナゴ	
かご	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			2	3		底層	ミスダコ、アイナメ、マメタガレイ	底ものは何でも入る
搬入 なし																				陸送はない。

・ 鳥類調査時船長ヒアリング

【11月調査】

- 魚群探知機に魚が映らない
- イワシの大群が港内に入っている
- 12月に入りサバの群れが港内に入りイワシがいなくなる

【1月調査】

- 表層に魚影は無い。中・低層のみ
- 流水が解けると寒流に乗りアミ類が南下してくる（4月頃→調査実施）

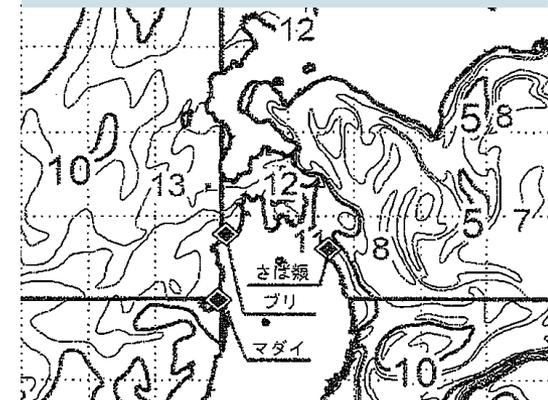
【4月調査】

- 離岸距離10km付近表層にアミ類が分布し、鳥類の出現もその周辺に多い

【5月調査】

- 冬から夏へ水の変わり目、魚類相の入れ替わりの時期
- 定置網にサバが大量に入る
- 離岸距離10km付近にマグロの群れ確認

【5月調査時の水温分布】



出典：一社）漁業情報サービスセンター
「日本周辺漁海況情報（FAX版）第745号」

3. 藻場

- **調査対象**

調査対象沿岸域のハビタットの基盤環境として藻場の分布を把握

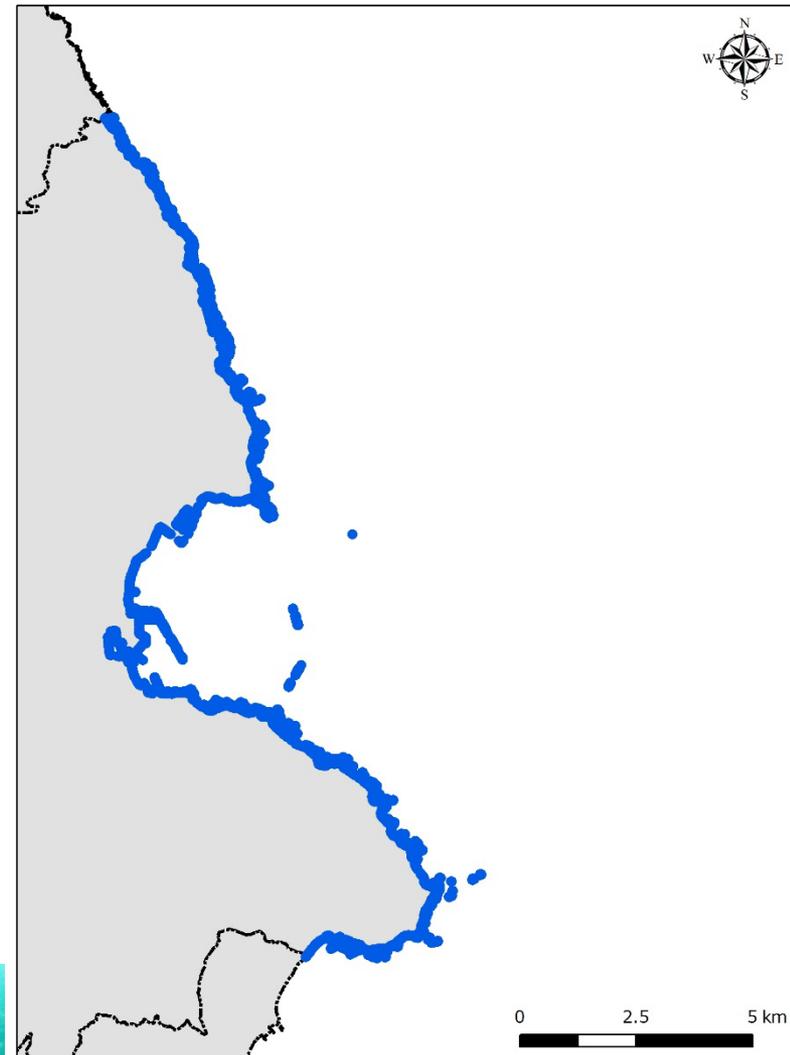
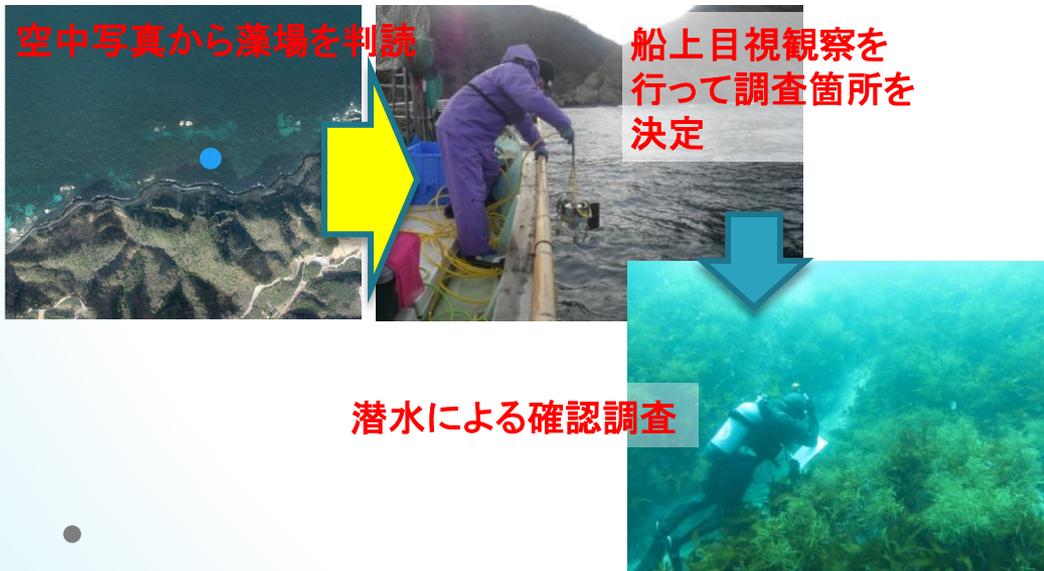
- **実施場所**

調査対象沿岸域全域

- **調査時期**

冬季（1月）・春季（5月）

- **調査方法**



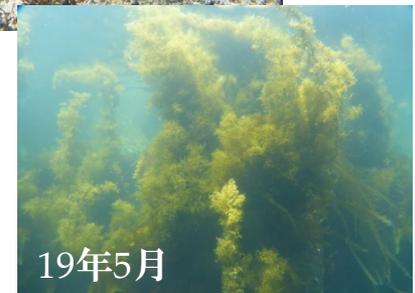
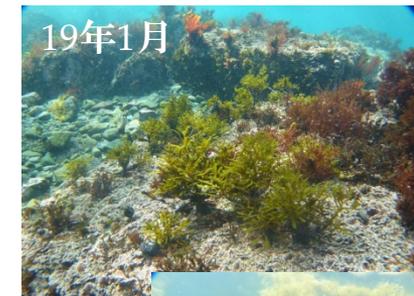
※現在調査結果とりまとめ中
結果は漁協生産部に報告予定

3. 藻場

- 海藻・海草類の主な構成種ならびに分布状況に大きな変化はみられなかった。
- 一方で、水温の変化による季節的な生長・伸長に伴い、相対的に被度が高くなっていた。
- 生長に伴う被度増大が顕著であったワカメはほとんどの地区で優占した。また、ホンダワラ類（ウガノモク等）が海面まで伸長し、ガラモ場が形成されている場所もあった。

主な構成種（概ね水深5 m程度まで）

海草類	スガモ
大型褐藻類	マコンブ、スジメ、チガイソ、ワカメ、ホンダワラ類のアカモク、ウガノモク属、ヒジキ、フシスジモク
小型海藻類	ウルシグサなどの褐藻類
紅藻類	ツノマタ類、アカバ属、ダルス、ハリガネ、ヌメハノリ、イソキリ、エゾシコロ、ピリヒバなどの有節サンゴモ類



ウガノモクの変化

4. 風況

- 風況調査計画

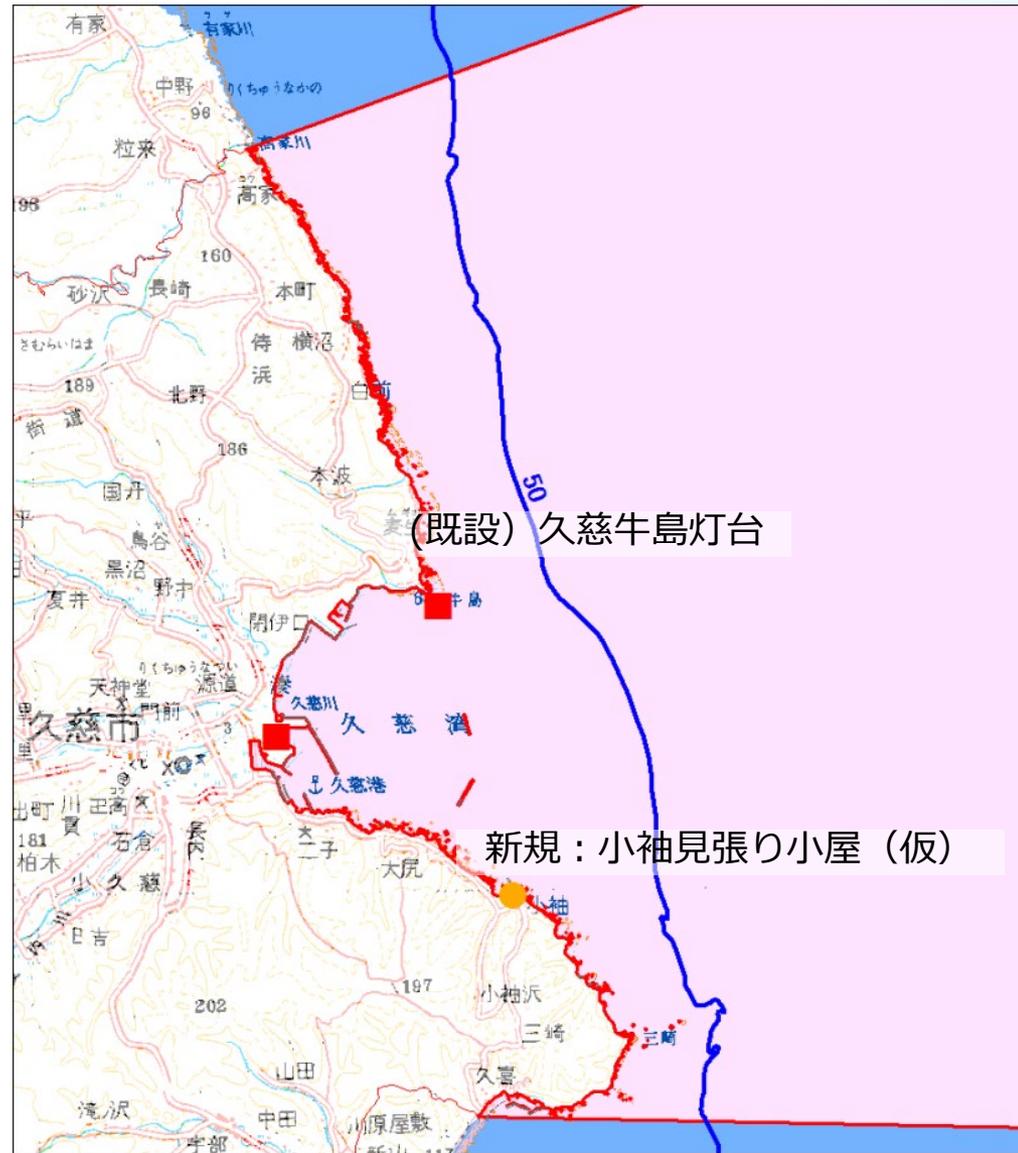
6月末機器設置に向け準備中
1年間の観測予定



画像 ©2019 Google, 地図データ ©2019 20 m



設置例



4. 風況

● 牛島灯台の風況

観測地点では冬季に風速が大きく、東寄りの風向の風速がやや大きい傾向にある。頻度としては西南西～南西の風向が高い。

夏季は風速が小さく、北寄りや東寄りの風の頻度が高い。



久慈牛島

風配図は第二管区海上保安部提供の久慈牛島灯台の観測データ（2018年）を基に作成。

